

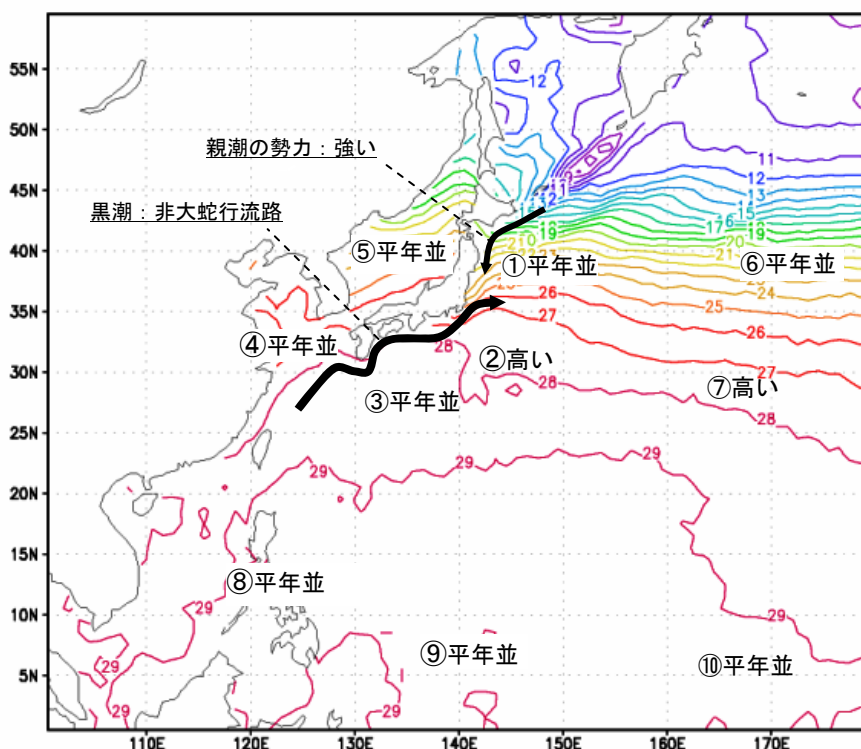
平成18年夏季の北西太平洋の海面水温予報

平成18年夏季(7~9月)の北西太平洋の海面水温及び日本近海の海流は、以下のように予想されます。

- ・海面水温は日本の南東及び日本のはるか南東で平年より高く、それ以外の海域では平年並となる見込みです。
- ・黒潮は日本の南岸に接岸して流れるでしょう。本州東方の親潮の南への張り出しは平年より強い見込みです。

平成18年夏季の北西太平洋の海面水温予報

代表的な海域	予報	予想される水温の平年からの差	代表的な海域	予報	予想される水温の平年からの差
① 本州東方	平年並	-0.4~+0.2°C	⑥ 日本のはるか東	平年並	-0.2~+0.4°C
② 日本の南東	高い	+0.1°C以上	⑦ 日本のはるか南東	高い	+0.2°C以上
③ 日本の南	平年並	-0.1~+0.1°C	⑧ フィリピン近海	平年並	-0.1~+0.1°C
④ 東シナ海	平年並	-0.1~+0.1°C	⑨ フィリピン東方	平年並	-0.1~+0.1°C
⑤ 日本海	平年並	-0.3~+0.2°C	⑩ 赤道域の日付変更線付近	平年並	-0.2~+0.2°C



8月の北西太平洋海面水温の予報及び平年値の分布(°C)

等値線は平年の海面水温を表す。代表的な海域の海面水温偏差の予想を図中に記入、矢印は黒潮・親潮の予想位置を示す。

【予報の解説】

気象庁では、海面水温と海洋表層の貯熱量、海面熱フラックス、上空500hPa高度などの関連する要素の最近までの変動の経過を用いた統計的手法による海面水温の予測、力学的手法による日本近海の海流の予測、夏季に予測される天候などをもとに、夏季(7月～9月)の海面水温、海流の見通しを判断しています。

1. 海面水温の予想

日本近海(含む日本のはるか東方)の海面水温は、昨年12月を中心とする強い寒気の影響をうけて、平年を大きく下回って以来、日本海、本州東方、日本のはるか東方では2月も低い状態が続いています(解説資料2参照)。東シナ海、日本の南、日本の南東ではその後は寒気が弱まったため、2月は平年並あるいは平年より高くなっています。海面下(深さ100m)の水温は、全般に平年より低い状態が、昨年12月以降続いており、海面下の水温が低い状態は今夏までは続くものと考えられます。一方、暖候期予報(2月23日発表)では、6月～8月の気温は北日本で平年並、そのほかは平年並か高いと予想されています。海面下の水温の低い状態は続きますが、海面水温の方は天候の影響を受けやすいため、低温傾向は緩和されると考えられます。日本近海の海面水温は、日本の南東で平年より高いほかは、平年並と予想します。

太平洋赤道域では現在ラニーニャ現象が発生している可能性が指摘されており、日付変更線付近より東では平年より低くなっています。今後この状態は次第に解消して、今夏のエルニーニョ監視海域の海面水温は基準値に近くなることが見込まれています(3月10日発表エルニーニョ監視速報No162参照)。このため北西太平洋低緯度のフィリピン近海、フィリピン東方及び赤道域の日付変更線付近の海面水温は平年並となる見込みです。また日本のはるか南東では平年より高い状態が夏まで続くと考えられます。

代表的な海域

(単位:°C)

番号	海 域	緯度	経度	低い	平年並	高い
①	本州東方	35N-45N	140E-150E	-0.5以下	-0.4～+0.2	+0.3以上
②	日本の南東	25N-35N	140E-150E	-0.3以下	-0.2～0.0	+0.1以上
③	日本の南	25N-35N	130E-140E	-0.2以下	-0.1～+0.1	+0.2以上
④	東シナ海	25N-35N	120E-130E	-0.2以下	-0.1～+0.1	+0.2以上
⑤	日本海	35N-45N	130E-140E	-0.4以下	-0.3～+0.2	+0.3以上
⑥	日本のはるか東	35N-45N	150E-180	-0.3以下	-0.2～+0.4	+0.5以上
⑦	日本のはるか南東	25N-35N	150E-180	-0.2以下	-0.1～+0.1	+0.2以上
⑧	フィリピン近海	5N-20N	110E-130E	-0.2以下	-0.1～+0.1	+0.2以上
⑨	フィリピン東方	0-14N	130E-150E	-0.2以下	-0.1～+0.1	+0.2以上
⑩	赤道域の日付変更線付近	0-10N	160E-180	-0.3以下	-0.2～+0.2	+0.3以上

(注)1971年～2000年の各海域における0.1°C毎の海面水温偏差出現頻度の上1/3を高い、下1/3を低いとしている。今年の夏季に予報される階級を網掛けで示す。

2. 黒潮、親潮の見通し

平成16年(2004年)7月に発生した黒潮大蛇行は、昨年8月に終息し、その後昨年12月まで黒潮は九州から関東まで日本の南岸をほぼ接岸して流れていました(解説資料4参照)。本年1月に九州南東沖で黒潮が離岸する小蛇行が発生しましたが、3月上旬現在その規模は縮小しつつあります。このような小蛇行は東に移動して東海沖で大蛇行に成長する場合がありますが、今回は3月中一時的に東海沖の黒潮の流路に小さな変動を及ぼす程度で、夏まで影響が残ることはないと考えます。したがって今夏の黒潮は日本の南岸に接岸して流れると予想します。

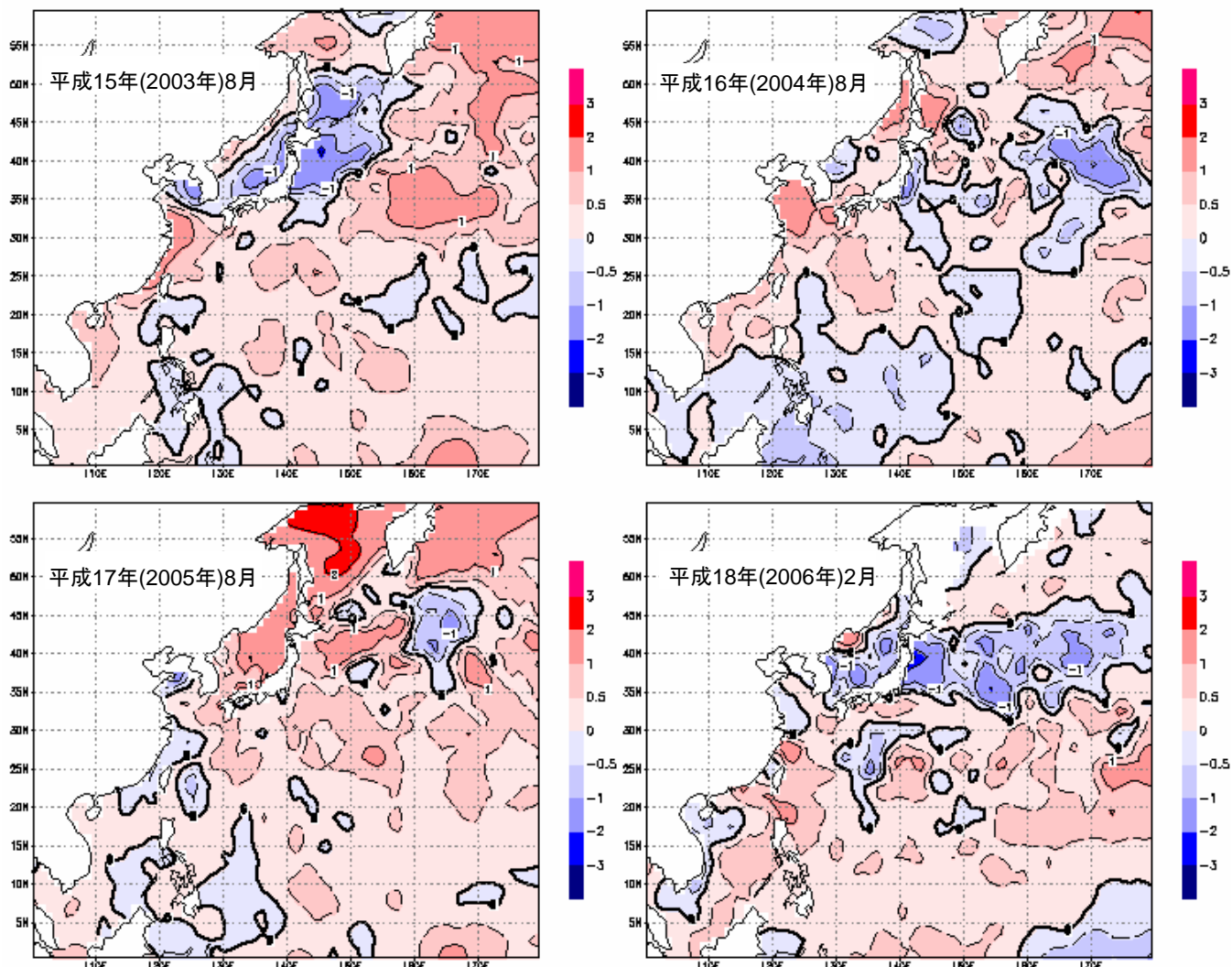
本州東方海域における親潮の南限位置は、今年2月に北緯37度付近にあり、平年より強く張り出しています。これは今冬の強い季節風の影響があらわれているものと考えられます。太平洋上の海上風と親潮の統計的な関係から、今夏に予想される南限位置は北緯38度前後(平年は北緯39度付近)で、平年より強く張り出す状態が続くと考えられます。

過去3年間の夏季海面水温の経過と最新の海面水温は解説資料2を、代表的な海域の平均海面水温偏差の経過は解説資料3を、黒潮流路の経過は解説資料4をご覧ください。

なお、日本周辺海域のより詳細な海面水温の見通しについては、函館、舞鶴、神戸、長崎の各海洋気象台の「地方海面水温予報」(3月10日発表)をご覧ください。

問合せ先: 気象庁 地球環境・海洋部 海洋気象情報室 03-3212-8341 (内線5127)
函館海洋気象台海洋課 0138-46-3209
舞鶴海洋気象台海洋課 0773-76-4115
神戸海洋気象台海洋課 078-222-8910
長崎海洋気象台海洋課 095-811-4865

過去3年間の夏季を中心とした海面水温の経過と最近の海面水温の状態



平成15年(2003年)から平成17年(2005年)の8月及び平成18年(2006年)2月の海面水温偏差(°C)。等値線の間隔は実線1°C、破線0.5°C、赤(青)は平年より高い(低い)ことを示す。平年値は、1971年～2000年の30年平均値である。

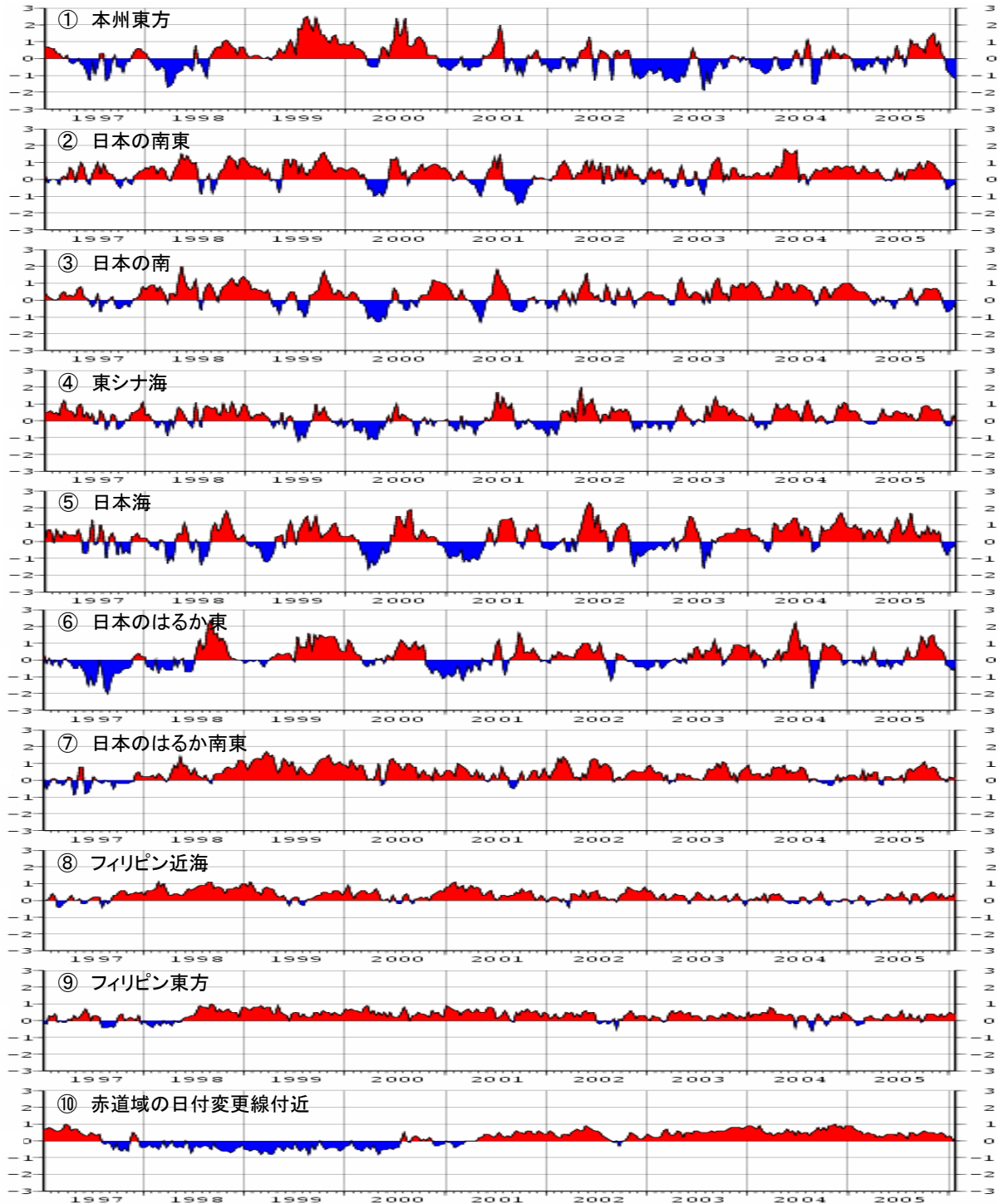
【平成15年(2003年)夏季】海面水温は、本州の日本海側から本州東方160° E付近までの広い海域で平年より低かったほかは、全般に平年より高かった。

【平成16年(2004年)夏季】日本近海の海面水温は、北海道の北と九州の西で平年より1°C高い他は平年並だった。日本のはるか東方で、平年より1°C低い海域が見られた。フィリピン近海からその東方では相次いで発生した台風の影響で、海面水温が低くなっていた。

【平成17年(2005年)夏季】日本近海の海面水温は、夏季の天候の影響を受け、北日本近海を中心に平年より高くなった。

【平成18年(2006年)2月】2005年12月に日本付近に強い寒気が流入し、海面水温は平年を大きく下回り、北緯35度以北では、2月までその状態が続いている。

代表的な海域の平均海面水温平年差の時間変化



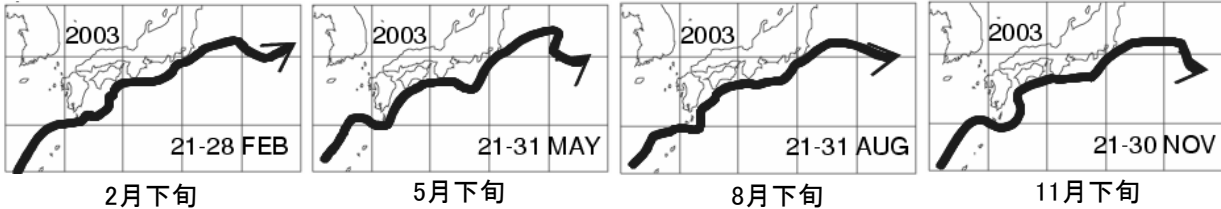
代表的な海域における1997年以降の海面水温の平年差の時間変化。

縦軸は水温の平年差：赤(青)は平年値より高い(低い)ことを表す。平年値は、1971年～2000年の30年平均値である。

最近3年間の黒潮流路の経過

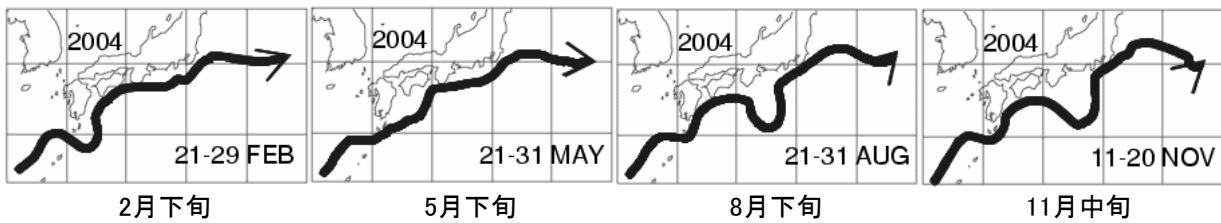
【平成15年(2003年)】

2月に九州東岸にあった小蛇行が東進したため、5月に東海沖で離岸流路をとった。その後東海沖では直進流路に戻ったが、11月に九州東岸に小蛇行が発生した。



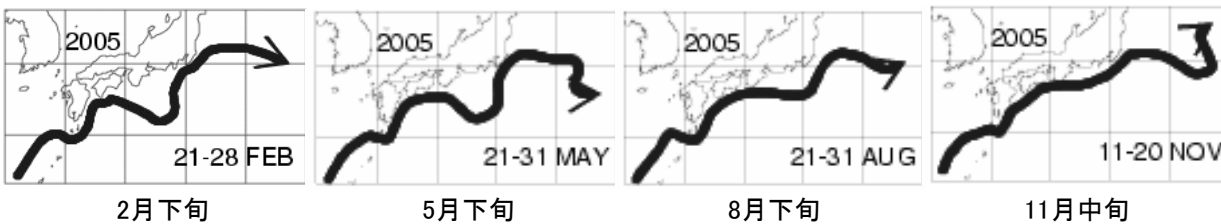
【平成16年(2004年)】

2003年11月に発生した九州東岸の小蛇行が発達しながら東進し、8月に東海沖に達した。それ以降は大蛇行流路で流れていた。



【平成17年(2005年)】

2004年7月に発生した大蛇行は8月に終息し、その後日本の南岸を接岸して流れていた。



【平成18年(2006年)】

1月に九州南東に小蛇行が発生し、九州東岸から離岸して流れている。

